2026 Race Report

2026年10月3-4日 GR86/BRZ Cup プロフェッショナルシリーズ 第6大会 鈴鹿サーキット 予選 **順位なし** 決勝 **31位**

予選ノータイムで不通過も、荒れたレースを３１位完走

T2 FACTORYは「GR86/BRZ Cup」に参戦しております。本レースの前身である「86/BRZ Race」を含み2019年のチーム開設時より参戦を継続しており、チーフエンジニアの大橋孝行が組み上げた56号車「栃木トヨタ T2FACTORY BS GR86」に社員ドライバーの鶴賀義幸が搭乗し参戦しています。加えて、毎戦ごとに各店舗からエンジニア２人がメカニックとして帯同し、活動内で整備技術を磨いています。

10月3日(土)～4日(日)、今季第6戦が鈴鹿サーキット(以下、鈴鹿)にて開催されました。前回の第5戦で接触を喫し、短い日程のなか急ピッチで車両修理を終え、休む間もなく鈴鹿へ乗り込みました。今大会の練習走行は木曜日の3枠と金曜日の専有走行あわせて4枠のみの設定で、短時間でいかにデータを集められるかが勝負でした。初日はさわやかな風が吹く秋晴れでした。乾いた路面の割にいまひとつグリップを捉えられず、本番に向けて車両に様々な調整を施し対策しましたが解決に至りませんでした。専有走行でもトップからの大きな差を埋められず、不安を残し予選を迎えることになりました。

3日(土)の予選は、青空が一面に広がる絶好のコンディションで行われました。今大会は併催レースの種類が多く、「レース用タイヤ」が複数種使用されているため、走行後の路面に溶けたゴムが残りやすくコース上は練習走行と違うグリップ感での走行が予想されました。毎度のことながら、一発勝負でコンディションに合わせられるかの力量が問われる予選となりました。

予選は、定刻通り11時5分から開始されました。多くのチームはセッション15分間のうち残り5分でアタック走行を開始しました。今まで当チームは他車との速度差が生まれてリズムが崩れないよう、集団との混走を避けてきましたが、この週末は路面のグリップを考慮し、他車と同条件・同タイミングで走行することにしました。やや周囲との位置関係でタイヤのウォームアップが難しくなりましたが、2分27秒210と自己ベストを上回るタイムを計測しました。１周のみの計測走行を終えると同時に予選セッションが終了しましたが、デグナーカーブ外側でわずかに4輪脱輪(コース外走行）をしたとの判定を受け、残念ながらタイムが不採用となってしまいました。予選は不通過ですが、幸い嘆願を提出したことで決勝での出走が認められました。







4日(日)11時35分、決勝が開始されました。空は暗い雲に覆われましたが、雨は降ることなくドライ路面でのレースで、グリッドは35番からのスタートとなりました。道幅が狭く曲がりくねったコースゆえに追い抜きが難しく、その窮屈さが接触の多発を招くことが予想されました。当チームは少し間隔を開け後方で落ち着いて走り、前方で競り合いになった車両が失速した隙を狙って順位を上げる作戦をとりました。予想通り、2周目に前方で複数台が絡むクラッシュが発生し、セーフティカーが導入されました。幸い選手に大きな怪我は無いようでしたが、全8周のうち3周は事故処理のため追い抜きのできない先導走行に費やされ、残り3周でレースが再開されました。ペースが拮抗した周囲の車両同士で一進一退の攻防を繰り返す展開になりましたが、最終的に順位を実質下げた34位でチェッカーフラッグを受けました。レース後、ペナルティが複数台に課せられ、結果は繰り上がりの31位でした。

今大会も2名のエンジニアが参加し、車両のメンテナンスに取り組みました。普段の業務ではほとんど触れることのない車高調整式サスペンションのセッティングは、レース特有の作業内容ということもあり、戸惑いながらの対応となりました。それでも限られた時間の中で丁寧に調整を進めてくれたおかげで、最終的に事故なく完走できる状態に仕上げることができました。また、若いエンジニアの一人は、慣れない環境の中でも指示を素直に受け止め、ひたむきに作業へ向き合ってくれました。その姿勢がチーム全体の雰囲気を支えてくれたと感じています。週末を通して厳しいレースではありましたが、結果として充実した時間を過ごしてもらうことができました。

次戦はいよいよ地元もてぎでの最終戦となります。今年の挑戦と成長の集大成をお客さまに胸を張ってお見せできるよう、より一層気を引き締めて準備してまいります。今大会も多くのご支援、ご声援をいただきありがとうございました。







ドライバー鶴賀のコメント



初めて予選でタイムを残すことができませんでした。チームの皆さんの頑張りや多くのご支援を結果に反映できず、大変申し訳なく思います。路面コンディションの変化への対応が甘く、まだまだ精進しなければならないと痛感しました。鈴鹿はとても好きなサーキットで、走行するのが楽しみだったのですが、今回は厳しい週末となってしまいました。このようなレースも大変貴重な経験なので、無駄にせずさらにレベルアップする糧にできるように反省し、次に活かしたいと思います。次戦はあっという間の今シーズン最終戦で、ついに地元での開催です。ぜひ来れる方は現地までお越しいただき、レースの迫力を感じていただければと思います。今大会も、応援いただき誠にありがとうございました。

令和８年 10月10日 T2 FACTORY